午前11時10分再開

○議長（堀尾俊浩君）　休憩前に引き続き、会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、16番実藤輝夫議員の質問を許可します。16番実藤輝夫議員。

（16番実藤輝夫君登壇）

○16番（実藤輝夫君）　16番実藤輝夫でございます。

まず、冒頭に、中村哲先生の訃報を受け、多大なるショックを受けました。遠くで見ていると、すばらしい生き方をしている私の先輩として、世界的に活躍されているという形で見ておりましたが、この訃報に当たり、報道され、そしていろいろな意見を聞く中で、本当に偉大な方だったと思われます。

先ほど、13番議員が登壇して、賛辞と弔意を述べられましたので、多くは述べません。しかし、私も一人の人間として、いささか政治にかかわる人間として、それを越えたすばらしい活動をなさった中村哲先生に、心から哀悼の意を表しまして、少しでも近づけるような人間になろうという気持ちで一般質問をしてまいります。

もう一つ、先日、議員研修で一般質問に関する講演がございました。この間、私は、40年前に議員になり、現在８期目を迎えるわけですが、議員とは何かというこの課題に対して問いをかけてまいりました。私なりに議員の役割を考えるならば、一に行政へのチェック。二に議会議員としての務め、これは予算決算、条例の審査、制定であります。それと同時に、議会人としての議会運営、これにかかわっていく。三番目には、地域の住民代表として、地域の諸問題を行政に訴え、そして各課題を解決していく。議員が、行政と住民とともに一緒になって発展させていく重要な活動であります。

もう一つ、最後に、市議会議員は地域の代表だけではありません。朝倉市議会議員として、現在の課題に取り組み、将来の問題を提起し、市長を中心とした行政とともに、あすの地方自治体、朝倉市をつくるために政策提言を行い、活動していくことであります。

やや一般質問がなおざりにされるというか、積極的になされていない、私にとってはこの10年間ではなかったかと思います。一般質問は義務ではありません。しかしながら、市長を中心に政策論争を行い、あすの朝倉をつくる重要な議員の活動だと確信いたしております。

８期目を迎えますが、１期目、31歳のときに、毎回16回欠かさず行いました。私も新進気鋭で、一つのスポーツ行政を中心とした甘木市をつくろうということで。その中で思ったことは、後からも述べますが、財政逼迫の折、ある先輩議員が、「実藤議員、財政問題を取り上げたら、あんたの望むような施策ができんばい」と。これはおかしいと私は思いました。取捨選択をすることによって、見直すことによって必要な事業はなしていく。幾ら財政が厳しくてもやるべきだと。

議員に対する本がございまして、提言書ですが、ちょっと名前は忘れましたけども、それを買ってきまして、毎回議会のたびに、３カ月ごとに勉強をしました。教える人もなく、

習う人もありませんでしたが、その中で財政用語を覚え、そして決算書を中心に数字を覚え、そしてその流れを覚え、私なりに４年間努力をしてまいりました。

そして、いろいろな提言を行い、重要なのはその財政の動き、金の流れを十分に知ることによって、あすの朝倉市の施策を提言してまいりました。あっという間に40年がたち、いろいろ思い出がございます。今本当にこの５月から、議会は私も再度活動しておりますが、今直面している問題に対してどれだけ積極的に発言し、対応しているのか。忸怩たるものがございます。

この８カ月の間、財政、人口問題、そして今後の課題に対して、議会はどれだけ積極的に話し合い、活動してきたのか。復旧・復興については不慮の災害でありますので、これに対応していくのは当然のことでございます。

しかし、きょうの私の一般質問の根幹は、復旧・復興は第一義にやっていかなきゃいけない課題であるということを前提にしながら、現在、別の課題もあります。そして将来への課題もあります。これにどう取り組んでいくか。また、新たにきょう、中村哲先生の教えに基づいて、有言実行でやっていきたいというふうに思っております。

最後に、ことしの秋のラグビーのワールドカップ、ほとんどテレビで観戦させてもらいました。非常に感銘を受けました。その中、わからないラグビー用語がありましたが、私が感銘を受けたのは「ノーサイド」です。林市長とは、昨年市長選を戦った仲ではありますが、このノーサイドの気持ちで、将来の朝倉市をともにつくっていきたいという気持ちに、このラグビー観戦の中でなしてもらいました。ことしの流行語大賞、皆さん御存じだと思いますが、「ＯＮＥ　ＴＥＡＭ」でございます。オールジャパン、オール朝倉、こうした問題をこうした気持ちで、今後の朝倉市が邁進することを心から願いまして、以下質問席において質問を続行してまいります。

（16番実藤輝夫君降壇）

○議長（堀尾俊浩君）　16番実藤輝夫議員。

○16番（実藤輝夫君）　６月、９月、そして12月、連続３回、８期目の私が一般質問をいたしております。残された私の議会活動、政治活動を、私に負託をしていただいている市民のために頑張ってまいります。

毎回最初に市長に問う、朝倉市の現状と課題及び展望とその施策という形で出しておりますが、これは具体的に言うと総論でありまして、先ほども13番議員が非常に貴重な質問をされましたが、どちらかというと職員サイドの話が多かったかと思います。職員がやる気を出して頑張るのは、当然と言えば当然であります。それをいかに仕組みとして効率を上げていくかというのが、また一つの先ほどの論議の一つであったと思います。

私は、それを前提としながら、９月に総合戦略会議、仮称ですが、これを提言しました。具体的な話は、その中ではする時間がありませんでしたけども。この提言を受けて、市長は検討させてもらいたいという言葉を最後に述べられました。これは、ひとえに市長のや

る気にかかっていると思います。というのは、私も長い議員生活の中で、昭和58年、２期目でしたけども、私が入るときから非常に赤字財政で厳しい状況でした。57年から58年になりまして、経常収支比率がたしか99.8％。そのときに、塚本倉人という市長さんでしたけども、自主再建か赤字再建団体になるか、その課題に直面いたしました。

それで、市長から提案がありまして、ぜひ多くの方々の御意見を聞いて、その結論を出して実行に当たりたいという中に、議会の、その当時は３名でしたけども、私も一員として参加させてもらいました。人数は覚えていませんけど、総合政策課長はそのときの資料がないということで、残念きわまりない。どういう構成でどういうことが行われたか。市長にとっては非常に参考になる資料です、これは。今抱えている問題に対して、職員だけではなくて、市長中心になって、トップとして指示を与えながら、市民全体としてやっていくという課題が今ある。

内容は多少違いますけども、大まか重要性においては同じです。今、防災の対策本部長として名前が出ております。私は、防災、これに匹敵する大きな問題が今出ていると。傍聴席の皆さん、何かわかりますか。私、６月の議会で言いましたけども、人口減少問題です。消滅可能性都市と出ましたが、可能性ではありません。消滅都市です。それは、なぜこの提案をするかということにおいて、もう喫緊の時代であるというふうに判断するからであります。

2015年の国勢調査のときに、朝倉市の人口は５万2,800台です。来年の2020年を見ると、そのときに消滅可能性として数字が出てまいりました。2020年は約５万前後、そして20年後の2040年は、社会人口問題研究会という国が指定している、今朝倉市も使っている資料ですが、３万8,000と出ました。私は、人口問題研究会のほうを使っていまして３万6,000ですが、それはいいとして、その段階で、そこをまず見ると、2040年で３万8,000と出された数字が、恐るべき３万3,000という数字が市のほうから出されました。5,000人減るわけです、予定よりもまだ。

そして、その当時は出ておりませんけども、2060年、今から40年後というのが出てまいります。これも社人研、国が出したものは２万7,000人という数字でした。これも驚くべき数字です。人口問題のほうはそこは出しておりませんが、これは市が出している、私たちに公表した資料です、今私が述べているのは。

そして、今回出された資料は、２万7,000が２万700です。約２万人です。これがこの資料に、この前全協に出されました。私もこの数字を知っておりませんでしたので、驚愕しました。私が予想していたよりもはるかな勢いで人口減少に至っている。

皆さん、特に傍聴席の皆さん、2060年で２万700人になってこの、見えますかね、この赤がこうなっているのが。これは先があるわけです。これがこうなることは100％ありません。これがこうなっていきます。そうすると、その後、10年後、20年後は１万人以下になるという単純計算です。しかし、これは予測可能なんです。物理的に人間が生まれると

いうのは決まっていますから。そこに存在している人たちが一応いる。社会増減は別として。そんなところに社会増減、これも全部減っています。

そしてもう一つ、後からも話が出てきますが、小学生、中学生が激減していくということです。学校の存立にかかわる事態が数十年後には起こってくるということを、常に教育委員会と市長部局は考えておかないかん。この人口問題、小学生、中学生が激減していくのを、教育委員会だけではとめることはできません。これは、市長部局の施策と、市民の、先ほど言ったワンチームでやっていくしかない。

そのときに、私は、財政も後からやりますが、戦略会議というのを、仮称です、これは、私の望むところは、やっぱり市長が前面に立って、武田信玄やら上杉謙信のように、戦略で後ろ側のほうにおるんじゃなくて、自分が前線に出て、そして指揮をとる。それだけの意欲がないといかんのではないかと思います。先ほど、中村哲先生、この前から市長も哀悼の意を表されている。私は、トップみずからが、この今後の朝倉市の政策に対して旗を振り、そして部下、そしてほとんどはもう全員が林市長を支援しているわけですから、あなたが出してくる問題に対しては全く問題ない。ぜひ、戦略会議を、市長が考えるこういった状況があるという中で、私は何らかの形でつくっていかなければ間に合わない。もう既に間に合わないのかもしれませんが、少しでも早目にやるべきだという考えを持っております。市長、これから先は少し、市長の考え方をお聞かせ願いたいと思います。

〇議長（堀尾俊浩君）　市長。

〇市長（林　裕二君）　９月議会で、戦略会議を設けたらどうかという御提案をいただいたところでございます。その背景として、昭和50年代後半に、当時の甘木市が非常に財政が厳しいという状況にあったときに、当時の塚本倉人市長の時代ということでありますけれども、お話があって、議会の皆さん方、組合の皆さん方、そのほか経済団体の皆さん方等の代表と識者、そういうことで効果があったんだというお話でございます。

我々といたしましても、資料が残っていないという御指摘のとおりでありますが、現在の朝倉市と議会のあり方の中で、全員協議会で朝倉市の方針等々については報告をし、お示しをしながら、そこで議会の皆様方からいろんな意見とか考え方をいただくという場を設けることができています。

それから、各種審議会あるいはこれに類いするような制度もございますので、そういった今の形と、議員が言われています戦略会議との整合性といいますか、今の形でやっていることに対して、戦略会議を設けたときに、いろいろと解決ができるかできないか。対応すべき課題が非常に多いというふうに現在は判断をしているところでございます。

そういうことでございますので、今すぐ戦略会議を立ち上げるということにつきましては、なかなか難しいという状況に現在は判断を今させていただいています。しかしながら、議員、豊かな経験と実績を持っておられる中での人口問題に対する課題解決、あるいは朝倉市の活性化に対する御意見等はお持ちでございますので、今後さらにいろんな形で、ぜ

ひお力を貸していただきたい、御提案をいただきたいということでお答えをさせていただきたいというふうに思います。

○議長（堀尾俊浩君）　16番。

○16番（実藤輝夫君）　ノーサイドの立場の私が言います。ナンセンス。今のような答弁がずっとこの間10年間なされてまいりました。

私がここで提案したって、議会の議員の皆さんもそうですが、こうです。市長も含めて、いかにやるかという形を取らない限りは、今の問題解決、今の答弁になるんだったら、私今ここに立って言いません。ゆっくりして、この12月議会も一般質問の勉強もしない、きのうは課長さんたちとあるところに視察に行きましたが、この一般質問のための。そういうこともしません。誰もすることいらないんだから。

私も、なぜこんなことを言って、嫌われるようなことを言っているかと。朝倉市を憂うからだ。市民の将来を憂うからです。私に託された市民に応えなきゃいけない。今のようなやり方を続けるから。議会の全協、ぜひ傍聴に来てください。今の私が言っているような課題は１回もない、この10年。

私は、その前は全協に事業の問題が出たときは、当事者たちを呼んで、全協で直にその人たちと話し合う。甘鉄のときもそう、美奈宜の杜の開発のときもそう、いろんな課題が、十数回私は経験ありますが、今それすら議会はない。じゃあ全協は何があっているか。執行部の報告を受けて質疑をする。もう早くやめておけという雰囲気。私は恐らく、自分で言えるけど、３分の１以上は私がしゃべっている。自信持って言える。

しかも、その課題は、今当面している課題ではなくて、今現在行政がやって、議会に報告して、皆さんの御意見を徴して、そしてスムーズにやるという成果の方法の流れの中に今はある。私が経験したものは全然そういうものの中にはない。かんかんがくがく、プロジェクトを議会の中につくって。だから、そうじゃなくて、議会だけじゃなくて、市長を中心としたプロジェクトチームをつくって現在の状況に対応していくということをしないと、今市長が答弁されたようなことは、今までのやり方を踏襲するというやり方です。何が問題が起こりますか、その中で。

そこはそこでいいじゃないですか。今やっている世界は。全員協議会、議会は議会でいいじゃないですか。議会の役割は議会の役割である。行政機関の別の行政委員会の役割は役割である。いろんなところである。それを、今市長が中心になって、この課題を皆さん方に問いたい。皆さん方にこういう意見を聞いて、一緒にともに行動しましょうというようなことを私は提言している。

いや、市長、いいですよ、しなくても。先ほどの答弁で。私の議会生活、日常生活には何の支障もありませんから。私はちゃんと議員報酬ももらえるでしょうし、やるべきことをそれなりに淡々とやりゃいいわけですから。そんなことでいいんですかね、私は。やっぱり私に託してくれた市民の方に対しても、１票を投じて実藤頑張れと言ってくださる市

民の方々に、そして市長は１万6,000の市長選の票をもらい、圧倒的に支援を受けたわけです。議員の皆さんの大半があなたを絶対市長にせないかんということで、したわけです。先ほど、ノーサイドですから。私はあなたに対して皮肉を言ったりそういう気持ちはさらさらない。ともに頑張ろうということを、一番最初に登壇して言った。

だからこそ、私は強く言っているわけ。先ほどの答弁は本当に残念でしょうがない。皆さん、どう思いますか。今までのようなやり方で現状が改革できますか。あのとき、58年はもうにっちもさっちもいかない。先ほども言いましたように、何とかせないかんと、恐らく二十数名あの会議室が埋まりましたから。あらゆるところから集めて、それで意見述べて。それで非常な強力な意見です。そこは提言を市長にするという形でしたけども。

今回、私が狙っている戦略会議というのは、ただ提言するだけではない。今やられているのは、みんな行政が説明して、意見徴収して、そして納得してもらって、じゃあこれでいきましょうという形でやっていて、これは行政上のルーティーンと言います。日常生活をやっていく、これをルーティーンという。前の副市長はその言葉をよく使っていたんだけども。その延長線にあるわけです、今。

これは地方自治体全部が同じことをやっている。多少の違いがあるだけ。総合基本計画の９割はマニュアルのもとにつくられているんだから。私も福祉のときに、自分が中心になってつくったんだから。それはコンサルタントを入れないということで。今、行政の中でコンサルタントを入れないものをつくり上げているのを言ってください、何か。自分たちだけでつくっているというのは、手づくりで。僕は手づくりでつくったんだから。社協のときの副会長として、委員長として。そういうもので全部14カ所の福祉協議会に調査に行きました。全部実態がわかった、そして。やっぱり自分が行って、そこで話し合いをして、何をなすべきかというのを聞いて、そして提言。残念ながら私は議員でしたから、それ以上にすることはできない。提言書を、福祉計画書を出すだけでしたけども。

市長は、今、まさに朝倉市の市民の、有権者全員とは言いませんが、その中の多数の人があなたを支持して、将来を期待しています。もう２年目を終わろうとしています。あと２年間で何を具体的にしていくかというテーマを出さないと、並行して復旧・復興が終わりましたらという話じゃない。復旧・復興は当然やらなきゃいけない。しかし、それと同時に、あすの朝倉市のための人口減少、財政再建、地域浮揚、この３つ。これにかかわる戦略を練って、あなたの旗のもとにみんな俺についてこいと。これぐらいの気合を持ってやってもらいたいというのが私の願いです。ノーサイドです。あなたの足を引っ張ったり、皮肉を言ったり、そうするつもりは今この時点でさらさらありません。あなたがやろうと言うなら、私も微力ながら協力します。

だから、そういったことの回答がないと、内部で何を話したんですか。もう本当に、議員の方々はそれぞれでしょうけど、傍聴席の方、私が言っているのが間違っていますかね。もう本当に、消滅可能性都市ではなくて消滅都市です。そして、きょうは、まだ１回目で

すから、きょうは後で杷木のことから朝倉から、順番に、人口問題、これを思料しながら、地域浮揚を私なりに、朝倉市議会議員として提言していこうと思っていますが。

杷木なんかは、本当もうあっという間に減っていくんです。今、大体6,200人ぐらいいるんですが、最終的には2,000人です、３分の１。一地方自治体、今の東峰村よりも少なくなります、現状の。あそこはもう少し、まだまだ少なくなっていきますけど。それで、地域の活性化とか、戻ってくるようなとか、そんな話ができますか。今回は杷木を中心にやりますが、次は朝倉とかずっと順番にやっていきます、毎回。

だから、そういった施策を、市長、やっぱりあなたが中心になってやらなけりゃ、お前たちに意見を任せた、行政、先ほどから話がありよります、充実させること、一番最初に言っている、当たり前のことでしょう、副市長、当然。職員が一生懸命頑張るのは当たり前でしょう。それを、上からぴしっと号令かけて。

私は一応歴史にかかわっている男で、戦国時代と明治維新は私の専門なんですけども、あの武将、みずからが先頭に立ってやっていくあの姿は、部下はそれにしかついてこないんです、あの時代は。負けたら殺されますから。領地を取られますから。だから、武将のトップに立つ人間に、これについていく。今川なんかが典型です。武田が典型です。あれのすごいものが没落していった。市長、もう一回、私が願っているのは、ただ単なる集まって政策論争をするんではなくて、市長の旗のもとに行動に移していく会でもいいし、委員会でもいいし、名称は何でもいいけども、そういうものをつくる意向はないのかと。そして、来年、再来年、あなたもう、あとからもういっぱい言いたいことはあるんだけど、復旧・復興ということが切れます。復旧は一応なるでしょう。副市長がよく知っていると思う。復興は簡単じゃないです。お金をもらってくるのは、今。先ほどもずっと国と財政のほうとの調整していますが、私なりの知識で、一個人が。頭の中にいっぱい入れていますけど。大変です。

市長、今、再度私の意見を聞いて答弁ください。

〇議長（堀尾俊浩君）　市長。

〇市長（林　裕二君）　現在、来年度の予算に向けまして、新しい人口減少対策等について施策等を今つくり上げながらやっているというところでございます。

でき得る限り、地方創生、そしてまた人口減少対策についてはやっていくということで取り組みをさせていただいています。

日ごろから、議員が言われますように、若い人、それから女性の皆さん方、それからもちろん地域を中心的につかさどっていただいている、守っていただいているコミュニティ区長関係者の皆さん方、あるいは福祉をやっていただいている民生委員、それから協議会、そういったところの皆さん方と、やっぱり意見交換をやるなり、でき得る限りやっぱり現場に出ていって、そしていろんな話を伺っているということを今やらせていただいています。

そういうことを踏まえながら、戦略会議については、先ほどお答えを申し上げましたように、現段階では、議会との関係、それから誰が出席するのかと、そういったことになってまいりますけれども、非常に難しい課題が多いということがございますので、新たに御提案の形での戦略会議ということは難しいかと今判断をせざるを得ないということでありまして、私的な意見交換の場とかそういったことも含めて、今どうやればいいかといったことを考えているところであります。

みずからが先頭に立って復興をやっていくと。そしてまた地方創生をやりながら、人口減少を抑制しながら、そして地域活性化を喫緊の課題として、関係人口と交流人口、観光、そういったことも含めながら、ぜひ進めていきたいということで考えている次第であります。

○議長（堀尾俊浩君）　16番。

○16番（実藤輝夫君）　私の仕事ですから、残された26分頑張ります。

本当に市長、今後ろで聞いていて、僕が傍聴席におるなら、市長は12月の段階で大きな施策を出すんです。先ほどの13番議員のときにも、予算編成のどうだこうだという話があったけど、総論の話です。これ、非常に重要。私はこれを前提にして話ができる。総論を話さなくていいから。各論です。何をしたいんですか。朝倉市、市民に、これ、俺は今度の目玉としてこれをやる。今の現状の中から脱却するためにもこれをやる。それがいちばんの、来年度の予算の骨格にならなきゃならん。それに対して、副市長以下部長、各課長、全員がそれにかかわる施策と予算、これを要求してくる。一つぐらいあったっていいじゃないですか、これはというのが。

今のこういう時期です。今、平穏な時期じゃない。戦国時代ならば、いつ攻められて滅びるかという時代。消滅可能性じゃなくて消滅都市だ。

一つ、これを言おうと思っていた。タイタニック号というのが映画で、私何回も見たんですが、もう沈みかけてもわからない上は、ダンスしているんです。ずっと愛を語り。ところがどんどん沈んでいっている。船長以下数名しか知らない。そして、結局はあの悲惨なタイタニックの事故が起きた。

もう朝倉市は確実、市長、何か来年度に私はこれをやる、さっきのような総論は、これは林市長でなくても、誰かれそこの席に立ってマニュアルを読んでこういう宣誓しますと、総論だったら誰でも言える。あなたしか言えない。僕は、きのうもずっとこの数日間あったんだけど、林市長というのは幸せな人だと。皮肉じゃないよ、これは。本当に恵まれた家庭環境で、親父さんも立派な方だったし、そして朝倉町のエースとして県議を７期もされて、無投票も長く続いて、そして今回も圧倒的な市長選で勝って。議員の大半、いや全て、皆さん林市長を支援して、市職員も全員あなたのもとにつく。これだけ恵まれた市長というのはうらやましいというのが本音です。

そこで何をやっても、あなたに対して批判は来ないです。やるべきじゃないですか。言

うべきじゃないですか。もう県議７期、市長２年、もうあなたの経験からしたらもう少し待って復旧だと、そういう時期は過ぎている。もう旗を立ててやっていかないかんと思いますが、具体性のあるものは何かないですか。

○議長（堀尾俊浩君）　市長。

○市長（林　裕二君）　３月議会にお示しをするという形に、基本的にはなります。ただ、今議員から期待を込めてお話をいただいたということで受けとめさせていただきますならば、ふるさと創生、これについて、どこにも負けない子育て支援、一例でありますけれども、このことについてしっかりとＰＲをしながら、そして市内外にこれを進めていく。

あるいはインバウンドを積極的にやっていくような施策を具体的にやります。

ほか、ありますけれども、３月議会でお示しをするという形で御理解をいただきたいというふうに思います。

○議長（堀尾俊浩君）　16番。

○16番（実藤輝夫君）　一般質問です。傍聴席の皆さん。市長がここで私の質問に対して、３月に予算編成のときに提起しますという回答はないんです。少なくとも、現在着々と編成されている、これを目玉にしたい、今後具体性のあるものは３月当初予算で提示しますが、今のところ私はこういうものを考えております。私の言っているような戦略会議じゃないならば、その中で予算をつけてこれをやります。それを打ち出していくことによって、市民は、「おお、朝倉市は将来こげなふうになる。へえ、令和２年はこういうことがなされる、それは期待しちょこう。そして、将来の消滅都市、ならんようにみんなも頑張っていかないかんな。」こうなるんじゃないですか。

これをやり取りを、やっぱり30分近くやっていましたんで、恐らくこういう結果になるというのはもう予測しておりました。多分こんな回答だろうと。まあ、いいです、それで。私の出る幕もないし。平穏な議員生活をやりましょう。意欲はあるけども議員ですから。私が先頭に立ってやったってたかが知れている。

次は２です。杷木復旧・復興を目指す筑後川リバーサイド再利用。ここまでしか書いていないんだけども、この前、建設委員会で石巻に行って、期せずして復興のすごいのが――建設委員会の人は全員びっくりしたと思うんだけども、私もその一人ですけど――復興施策でできていました。それは見事なもん。川沿いにぶわあっと。口で言ってもなかなか表現できないんだけど、そこのそばに総合文化センターみたいなのがあったり、レストランみたいなのがあったりしてから、一体化させた。もう冬に近いですから、照明がついてすばらしかった。あんなものが筑後川のそばにできれば、原鶴温泉も杷木もいいんじゃないかと、みんなで話し合いながら、私も心ひそかに思っていた。

これは、８年たってできあがっているんだけど、その計画はもう３年、４年後ごろからできていないと、簡単にできる話じゃないんで、あそこだけじゃないから。だから、もう復旧というのと同時に、いかに復興をしていくかという話なんです。復旧・復興がセット

で出てくる話じゃない。復旧をする部分と、復興に目指して関連させていくとかいろいろあるわけ。

その被災を受けたところを復旧して、そこに何か復興しますという考え方が一つある。しかし、復旧する場所は復旧する場所として、その横にある、関連するところにまた復興をするものをつくっていって連携させる。あるいは、３番目には、何らかの関係で関連する――例えば杷木だったら朝倉、朝倉だったら、三奈木だったら今度は甘木とか、立石とか、この連携をとるような復興活動もできる。

私は、ここに具体性を書かないで、これは復興なんですけど、リバーサイドの再利用ということを考えたんですが、市長は何か、今までずっと、時々あっちこっち行かれてからいろんなものを見てから話し合いをされたと言うんだけども、こういうのを大体は、私が望む戦略会議でやって、みんなの意見を聞いて、いろんな角度から、地域の人だけじゃなくて、いろんな人から聞いて、どうやったらいいんだと、そしてあなたが中心となって国とのパイプを使って復興予算を取ってきて、そしてあれまでは言わないけど、何らかの形で。

そして、私はあなたと余り変わらないから、私たちの学生時代に、「一点突破、全面展開」という言葉がはやりました。覚えていますか。一つの地点を使って、そこを成功させることによって、徐々にずっと広げていくという展開をして事をなすという形。一遍に全体をなす、朝倉市全体をどうかしましょうったってそんなことはできない。でも、一つ一つを成功させることによって、物事を広くやっていくというのが、「一点突破、全面展開」。

だから、杷木を何とかしたい。別に杷木ばっかりやっているんじゃない。次回は朝倉、その次は上秋月とかずっと回っていきますけど。私なりの考え方を提言していきますが。で、この中に、今私が考えられる、すぐできそうなのが、筑後川再利用というふうに考えております。市長、どう思いますか。

○議長（堀尾俊浩君）　市長。

○市長（林　裕二君）　平成29年災害、それから去年の災害、そしてことしの災害ということで、筑後川は非常に今、従来からいろんな人が努力をされて展開をされてきました。

パークゴルフ、それから原鶴の旅館組合、あるいは原鶴の振興会、現在なくなりましたけれども、そういった人たちが、折々に行事を、リバーサイドでちょっとやられてこられてきたといったことです。災害が起きまして、今復旧に全力を傾注しておりまして、関係機関、特に国ということ、それから県も関係いたしますので、そういったところにしっかりとした復旧・復興、そして防災の面から、緊急対策が国で決定されていますので、この対策を実行していただくに当たって、リバーサイドが原鶴温泉にとってもいいように。

そして原鶴温泉が、今議員からお話がございましたように、全面的に、一点から全体に広がるという考え方は全くおっしゃるとおりでありますので、そういったことにつながる

ように、まず復旧事業、そしてそれから筑後川の防災事業、そういったことにお願いをしているという段階であります。

○議長（堀尾俊浩君）　16番。

○16番（実藤輝夫君）　地域の人たちが中心になって、一生懸命考えておられるということは十分に承知しています。

私は、長年の経験で、地域の問題は地域だけでするという考えはとっておりません。内容によってはそのとおりです。しかし、全体に波及して、みんなでそこの地域をよくしようという考えは、杷木だけではありません、これは。甘木もそうです、秋月もそうです、蜷城も全部そうです。みんなの議員が、全員が朝倉市議会議員としてやろうじゃないかというのが、私のこれまでの経過でした。だから、縄張り意識とか、これは今度は朝倉やったら朝倉の問題なのに、あれはどこどこのところに行ったら、「それをお前が何で言うか」とか、強烈な応援者が私に言うかもしれません。そんなことはちんけなことです。みんなで知恵を合わせてやっていくというのが、私は大事だと。

それで、この中に一つ、私は、今、この前、３番議員がグラウンドゴルフの話をされたと思うんだけれども、私、実は丸山パークというのに入っているんです。二、三年、今やっているんですけれども、部課長の中には知っている方もいるんだけれども、今回も、それで一緒にやっているんだけれども、視察をね。非常にいい。

パークゴルフはパークゴルフなりのよさがあるでしょう。それぞれの、ゲートボールはゲートボールのあるでしょう。しかし、今の流れから、人口からして、将来の流れとして一点突破、全面展開をする上においては、パークゴルフだけに固執することもなく、何か新たにグラウンドゴルフ、これは、きのうも課長２人と職員１人で、筑後川のリバーサイドに見にいったんですけど、視察に行ってきました。いろんな勉強になったという、生涯学習課長は今来てないようだが。先日は一緒だったんだけれども、そういったものを、実際、現場をずっと見てきています。

これは、下に設備が要らない。芝生を張るだけ。丸山公園もそう。何もなくてもいいんだけど、あったほうが、きちっとしたものができます。

それで、それを売りにしたらどうかと。パークゴルフができる。それを外してするかどうかは、私はわからない。これは技術的なものもあるし、国との関係もあるでしょう。しかし、私はグラウンドゴルフに入っているんだけれども、年間に２回、温泉に行くんです。

それは、温泉に入りにいくんじゃなくて、グラウンドゴルフがあるところを探していくんです、4,000円で。そして、そこでからグラウンドゴルフをして、飲み食いして帰ってくる。

きのうも、一緒に会長さんと行こうと言ったら、会長さん、旅行に行ってて、グラウンドゴルフで熊本に行っていて、そして今度は、来週は佐賀の温泉に行くんです。70人です。

わずかなところで、それだけのものが温泉地に行っているわけ。グラウンドゴルフは、

今、すごいですよ。朝倉で20チーム、500人。そして、ほとんど１カ月に数回は、北筑後大会とかいろんな大会で交流があっています。市長杯もあっていますよ。行かれたことあるでしょう。250人ぐらい集まります。あの小さい丸山公園で３面とって、ぎすぎすしながら。

だから、私が言っているのは、グラウンドゴルフするかせんかはどうでもいいんです。あなたがせんっていうならそれで。でも、それだったら、今さっきの話は、本当に地域の人は一生懸命やっている話なんだ。それだけじゃだめでしょうというのが、きょうの話です。

今までこうやっているから、この継承をしながら、このとおりやる。横からやるといろんな問題が起こる、だから、波風立てないように、今までどおりやりましょう。こんなことやるのは平穏無事なとき。タイタニック号が沈没するというのがわかって、そんな悠長なことが言っておられなかったのが私です。

何か手を打っていかないかんのです。摩擦が起こっても、これをやろうじゃないか、検討させたらどうですか。

グラウンドゴルフがいいか悪いかは別で、きのう、それで取り合いができるのか、パークゴルフと、別々のところもあるし、一緒のところもあるらしい。それで、グラウンドゴルフが終わったら、その１面とかじゃなくて、そこだって３面できるんだから、最低３面は要ります、大会するのには。

だから、そういったところで、今、言ったようにあっちこっちの人たちが、そこの温泉地区を目指してグラウンドゴルフ、私はこの前、日田かんぽかな、あそこに行きました、三十数名で。その前は筑水荘に行った。僕は最近入ったばかりだから、みなさんはもう何十回、あちこちに行ったらしい。そしたら、筑水荘のグラウンドゴルフの施設は悪い。何で行くのかって聞いたら近いからって。原鶴にあったら、それなりのものがあったら、みんな行きますよ。

だって日帰り、そりゃ一泊旅行はまた別だけど、日帰りで。そして、それを全員行く。この前、３番議員が言ったように、健康にもいいですよ。やってください。

きのうは、課長２人と職員１人、ちょうどたまたま、そこで練習、グラウンドゴルフ一緒にやろうって、おもしろいとか言っていましたけど。だから、大体80歳前後の上下が多いんですけれども、年寄りのスポーツと思ったら大間違いです。本当に、3,500から4,000歩歩きますから。さっささっさ。

そして、もう一ついいのは、みんな家に閉じこもっとったっちゃ、ひとりで寂しいもんなと。私も94歳のおばあちゃん、近くの人ですけれど、私が行くときは車に乗せて行っていますよ。「ああ、よかった」って言って、この前は缶ジュースをもらいました。

だから、原鶴温泉がそこにあるということは、すごいことなんです。そこに人を呼ぶ。今、パークゴルフもいいかもしれん。これを否定はしません、私は。しかし、グラウンド

ゴルフというものと併用できる、これはできるんです。
そういったものを取り入れて、そして今、お金、金かかるやろうって思っている皆さん。今、設備費を入れて1,900万円あるんです、使える金がと説明を受けました。
そして、年間に原鶴温泉から、今、シルバーに渡って300万円の維持管理費が出ています。今さらこれをするためにお金をつくれって、違うんです。パークゴルフは設備費が要りますよ。知っている人は知っている、知らん人は知らんでしょうけど。そして、また豪雨が来たらパアですよ。下を掘っていきますから、豪雨が。
でも、グラウンドゴルフは、整備をもう一回しなおして、芝生をきちんとすれば、それで終わりですから。玉が転がらないかんからね。それは、筑後川に実際あるから見てもらえばいい。課長２人と職員１人です、きのう３人で視察に行ってきました。だから、これは可能だね、やり方もいろいろ勉強していました。私は知っていますからいいです。
だから、そういったものを市長、やっぱり考えていくべきじゃないですか。また、できませんとか、周りの人と相談しましてとか、あなたの言葉ですかね。何か、そんなことばっかり言っていたんじゃ、先に進まんと思うんです。やってみたらどうですか。指令出して。
それでもだめと、地域の人もだめて、そらいいですよと。私は、もうさっきから、何回も言っておりますけれども、これは実行できない、実際ならなかったからっていって、議会生活に何の支障もないし、うちの日常の家庭生活にも何の支障もない。ゴルフも行きますし、楽しくできます。
しかし、そんなことじゃいかん。やっぱり職責で、何かあるなら命をかけたってやらないかんじゃないかというぐらいの気持ちを持っております。
実際に行ってきました。何回も言うだけのことは見て、百聞は一見にしかずで、お金も、聞いたら1,900万円もっと、私は本当なら九州一ぐらいのグラウンドゴルフにして、九州一円とは言わずに、実際に来ているわけだから、温泉、グラウンドゴルフに。
もう私は実証しているわけですから、そういうもので原鶴を活性化させる。そしたら口コミですよ。この会長たちが、また、きのう行ってきたグラウンドゴルフがあるから、そこの温泉を指定したというんだから。70人、来週行くっていうから。それが、あっちゃこっちゃから原鶴に来てごらんなさいよ。そして、大会もする。
そして、この朝倉市の老人の、老人と言うとおかしいな。一応、高齢の方々の健康と精神的なもの、恐らく、そうなったら３番議員も頑張りますよ。だって、９月に言っておるから。別に、あなたのことを言っているわけではないんで、そういったものが、みんなが大事にしてからやっていかないかんのだろうと思います。
だから、市長、何か検討するぐらいかなんか、頑張りますかなんか言ってくださいよ。お願いします。
○議長（堀尾俊浩君）　市長。

○市長（林　裕二君）　グラウンドゴルフ、それからパークゴルフという形で１年後に、昭和56年、57年に、それぞれスタートしているということで聞きました。

そして、グラウンドゴルフに対する期待といったことについてもお話がありました。私も、全く知らないわけではございませんで、９ホール全部回ったことはありませんけれども、数ホール回ったことはあります。

だから、パークゴルフは何回か連れられて行っておりまして、その違いといったものも、自分なりに理解をしているということでございます。

こういうことでございますので、全く同じというわけではないという認識は、今、持っています。ただ、議員、御提案がございましたので、御提案の件については、ちょっと検討をしていきたいというふうに思います。

○議長（堀尾俊浩君）　16番。

○16番（実藤輝夫君）　私は、先ほどから何回も言うように、グラウンドゴルフに固執しているわけじゃないの。私の狙いは、それを通して一つだけども、何でもいいんだけども、原鶴活性化にならないのか。原鶴が活性すれば、杷木の活性にならないのか。そして、それがまた朝倉市全体の、何らかの形で活性化できないのかというときに、ちょうど私が、今、経験して、体験しているグラウンドゴルフというのがあるよと。これは、まさに温泉めぐりをしながら、みんなが楽しんでいるスポーツだよと。これにまさるものは、今のところ私はありません。

私は野球もしましたし、柔道もしましたし、相撲も選手で出ましたし、いろんなスポーツをやってきています。ラグビーはしませんでしたけど。しかし、ラグビーのよさは、今、感じています。私のころは、そんなになかったから、ここには。でも、やっぱりそれはやるべきだというふうに考えています。

市長、今、検討するということで、矛盾しないから、矛盾しないやり方を部下の方に検討させてくださいよ。あなたがここで、地域の人がだめだと言うんだったら、もうそれでいい。もうそれで私は。しかし、何らかでみんなの人がやっていこうという気持ちが、地域の人と周りが一緒になれば最高だなと思います。

時間がありませんので、簡単に。せっかくおそろいだから。

実はこれ、小学校・中学校の英語教育と国語教育についてというのは、提言というか、教育長に、ぜひ、この国語教育の重要性を、私は学校教育の中でやってほしいというのが願いです。

ちょうど、スピーチコンテストにお呼びいただいて、私も参加して、非常に楽しみで、ちょっと二、三回欠席、今度は再度行きました。本当に、うまいうまい、中学生って。今度は小学校６年生が出てきてもちろんプロナンシエーション、発音の指導もされているんだけど、ちょこちょこあったけれども、本当に全体的にはすばらしいと思う。あれが全体的ならすごいんだけど、そうはいかないんだ、一部だけど。

その中にびっくりしたのが、これは、もうその人が悪いんじゃなくて、小学校６年生が「Ｉ　ｌｉｋｅ　ｍａｔｈ．Ｉ　ｄｏｎ’ｔ　ｌｉｋｅ　Ｊａｐａｎｅｓｅ．」と言ったんです。覚えています。「ううっ」と思いましたね。これ、言わないかないと。

僕は、今までもずっと、この英語教育が2018年、そして2020年から特化して小学校でやるというから、ずっと提言してきましたよね。ＡＬＴの話もしてきました。あと、７番議員からも話がありますから、それはそれとして、でも、私は英語教育絶対主義者じゃないということだけは言っておきます。国語力が絶対です。

私は32カ国、外国回って、いろんな人とフリートーキングをやって大学にも行きました。一番大事なのは、私の頭の中に入っているものを論理構築できて、いかに自分のオピニオンとして、意見として述べてコミュニケーションを図るか。そして、問題解決になるか。

英語の、今やっているのなんて、手段の手段でしかない。ショッピングだとか何とかかんとかって、そら大事です。もっと大事なのは国語力。

それで、学校教育の中に英語教育をどんどん推進していってほしい。中身も充実してほしい。ＡＬＴも、そして欲しいというのが私の願いだけど、本当に、林市長は知らないんだけど、私は英語立国にしようというのが、この裏側には、このテーマの裏側には、本当はそこだけ出すと、国語教育がいっつも外れているわけ、私の質問の中に。それじゃいけないと。

そして、もう時間がありませんので、外国人のインバウンドも、英語立国を原鶴のほうで受け皿をつくって、原鶴を、楽天は、今、幹部は、中野副市長知っていると思うけれども、幹部は、みんな英語ですよ。英語でやっているんだ、会議を。そういう大学とか、そういう会社の人たちを、原鶴に誘致してやろうじゃないかということでございます。

時間がありませんので、最後、またやりますけれども、継続してずっとやっていきますから、何回も何回も。教育長、ひとつ、国語力の問題と絡めて、あなたの考え方をお聞かせください。

〇議長（堀尾俊浩君）　教育長。

〇教育長（宮﨑成光君）　今、おっしゃっていただきましたことにつきまして、同じような考えを持っております。

これから先、子どもたちがグローバル社会に入っていくときに、英語力は非常に大事だと思っています。でも、その基盤は、日本語として思考し、自分の持っているもの、考えを伝える意思とその努力、そのコミュニケーション力が大事だと思っています。

国語教育の充実さは、英語教育をする上で、非常に大事なものだと思っています。以上です。

〇議長（堀尾俊浩君）　16番。

〇16番（実藤輝夫君）　時間がないので、コンパクトにまとめてもらいました。そのとおりだと思います。

ただ現場の中で、これは実践はなかなか難しいだろうと思うけど、教育、主事も課長も全部おられますので、やっぱり学校に常々そういう話をしていく。英語教育も大事だけども国語教育を忘れちゃいかんよと。こういうのを常々、やっぱりやっていきながら、本来の日本人として、そして郷土人として、恥じない国語力というものを身につけていきたい。これは私が、自分自身に言っていることです。人様にどうだこうだ言う立場ではありません。

以上をもちまして、私の一般質問を終わらせていただきます。

○議長（堀尾俊浩君）　16番実藤輝夫議員の質問は終わりました。

暫時休憩いたします。午後１時より再開いたします。

午後零時10分休憩